

## 五月の天象

### 太 陽

月始めは金牛宮に在るも、21日より双子宮に侵入する。

日	赤 經	赤 緯	星 座	視直径
1	2時33分	北15度 1分	ひつじ	31分47秒
11	3 11	17 50	ク	31 43
21	3 51	20 9	うし	31 39
31	4 31	21 53	ク	31 36

太陽自轉軸の傾きが、次第に減するに同時に、赤道の位置も、益々視中心に近づき、月末には、殆んど之に一致する様になるので、太陽自轉の爲めに見ゆる黒點の運動は、丁度、一直線に東から西へ進む様に見える。

9日に皆既日食が起る。我國では同日午後部分食が見える。(279参照)

### 月

月の相	時 刻	星 座	視直径
下 弦	2日午前10時25分30秒	や ぎ	29分42秒
新 月	9 午後 3 7 18	ひつじ	32 52
上 弦	16 午前 5 56 0	し し	31 44
満 月	23 午後 9 49 54	さそり	29 44
近地點通過	11 午前 5 6	う し	33 6
遠地點通過	26 午後 4 54	い て	29 26

今月は、6日午後8時に天王星に出會ふのが先づ最初で、それからは相次いで、7日午後4時に金星と並ぶ。併し其の距離は随分懸け離れてゐる。次が9日午後10時に木星と、1度以内の距離に接近する。但し之れは、新月のため見えない。次いで11日午前3時に水星と出會ふが、日本からは駄目。14日正午に火星と並び、16日午前10時に海王星に出合ふと、此の遽しい歴訪が殆んど終つて、以後暫らくは遊星のゐない星の林を縫ふて進む。そして最後に、26日午前4時に土星に出會ふのである。

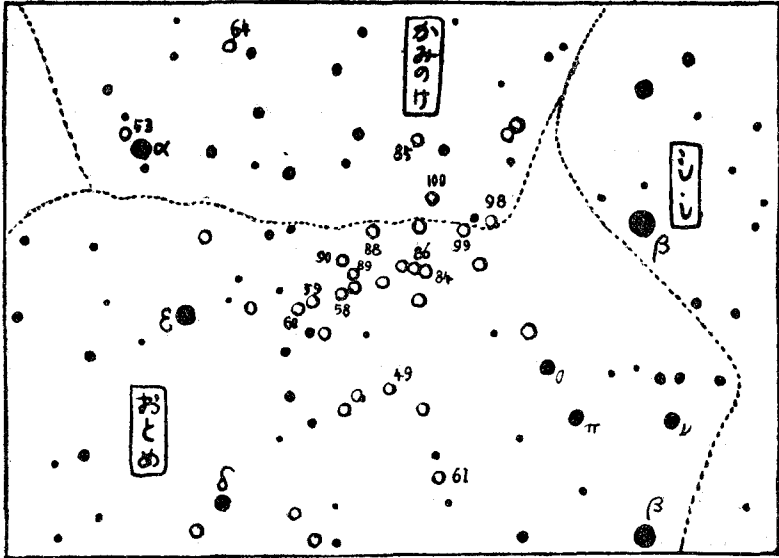
### 黄 道 光

今月一ぱいはまだ観測出来る。殊に金星や木星等の邪魔もなくなり、只

だ火星のみが天頂近くにあるが、光度も弱ひので左迄不都合ではない。

### 星雲と星團

夕方の9時頃になると、「おこめ」が南中して、可成り高い所に位置を占める。此の「おこめ」を「しし」を「かみのけ」をの三つの星座の境附近に可成り澤山の星雲や星團が雲集してゐる。若し3吋級の望遠鏡であれば其の内の大部分を認める事が出来る。尤も、光度の弱いものであるから、月のない時、空気の清い所である事は必要な条件である。

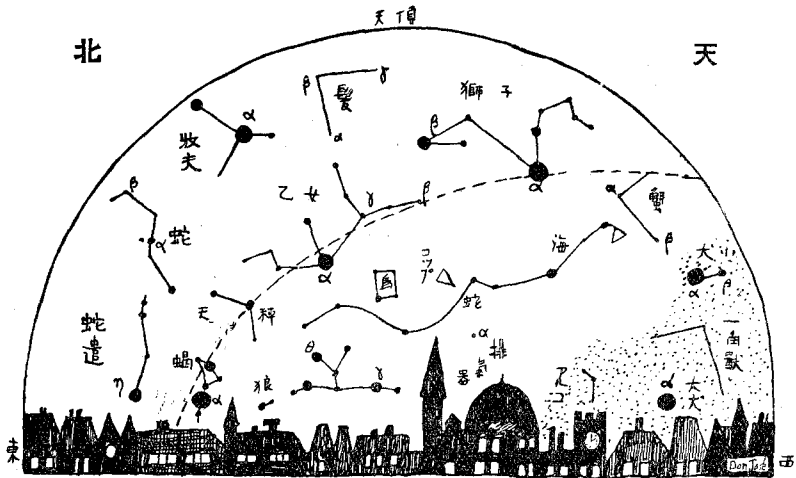


更に此處より約10度北の所にも可成り多くの星雲や星團が集まつてゐるから、此處を見られた序に、「かみのけ」座の $\gamma$ 星附近も見られるご面白からう。

又た、肉眼で見える星團では、少しまだ時期が早いけれども、M13がある。位置はヘルクレス座 $\eta$ 星と $\zeta$ 星との間約3分の1丈 $\eta$ 星に近い所にある。

### 日 蝕

我國からは部分蝕しか見え、臺北で約六分即ち半分以上かけるけれど、九州では既に三分以下であるし、仙台より北では殆んど肉眼では認められない程になる。各地の蝕の終始の時刻は別稿を見られ度い。(279頁参照)



## 恒 星 界

花も過ぎて、若葉のもさの、そゞろ歩きにも、もう既に肌を感ずる頃となつた。愈々冬さもお別れである。オリオンも既に西に没して、空も全く春の星座許りとなつた。

銀河は殆んど地平線に没して、大きな星は極く少ない。それでも南の空には、プロシオン、レグルス、スピカ、アンタレス等の一等星が黄道に沿ふて並んでゐ、その南には只一つシリウスが輝くのみで、ヒドラの長い身體や、センチウル、アルゴ等の諸星座が、かすかに輝いてゐる。五月を代表する「シシ」と「おこめ」と「まきな」とは南に高く座を占め、その「シシ」の主星レグルスに海王星の近いのも面白い。天頂には「かみのけ」「りようけん」が來り、北斗は北天に高い。カシオペア、セフェ、[はくちよう]は殆んど見えないが、「ふたご」や「ぎよしや」が今正に没せんとしてわずかに西に見られる。東の空にはヘルクレス、「へびつかひ」「さそり」等がやつと顔をもたげて、「もう夏も近いよ」と云つてゐる。

日没後しばらくは水星が見えるし、その後には火星が續き、更に海王星、また暫らく待てば土星も登つて來る。今月の遊星中では土星が最も觀望に適し、その環の傾も大である事等と共に、こゝ二三ヶ月は花形役者となるであらう。

